

新聞掲載

奄美新聞 R5.10.17

奄美勢、競歩2人が入賞

向井（九共大、）
喜界中卒）、原（大島高）

国体陸上



4位入賞した向井（右）と8位入賞だった原（左）-白波スタジアム

【奄美】徳島の感動がしる国体陸上第8日は15日、鹿児島市の白波スタジアムであり、成年男子10000メートルの向井大輔（九州共立大、喜界中卒）が第4位入賞（21分10秒）で8位入賞した。

向井大輔、自分を描いた通りのレースができた。途中までは社会人選手のスピードについていってラスト1000メートルの勝負だと思っていた。競走から追い上げられて無気もあつたけど母校の応援一で頑張った。大学最後のトラックレースでこんなにも多くの人に応援されて、無り上がったレースを経験できて良かった。

原勇輔（大島高）「インターハイで悔しい思いをしてから、この国体で入賞することだけを考えて、練習してきたことが出せた。自分の歩きに集中し、焦しみなから、攻めるレースができた。これまでこれだけの白カーンの方じゃない。尚、指導者、チームメイト、支えてくれた全ての人に感謝したい。」



陸上少年男子10000メートル競歩、朝陽と組合原（左）と向井大輔（右）

弱点を克服 原、会心レースで雪辱果たす

自己ベストを約20秒下回るハイが絡むことで、たまたま運の空みも前報の8位入賞が確からず、国体で入賞する口福だった。定率も、原は自身で「五分五分を考えた練習」インターハイは優勝喜びを表現した。「イ」してきた結果が出せ、進みながらも、あの

ハムストリングスを肉み、滑を滑して地面固むことしか考えなかつた。大きなヤマ場はインターハイから、頭を坊す経験だった。スタート走から4番手をキープした。8月はけがをして、後方からの回復で練習できなかった。8月以降は寸分の差、8月以降は寸分差を悔しんで練習した。

「インターハイで悔しい思いをしてから、この国体で入賞することだけを考えて、練習してきたことが出せた。自分の歩きに集中し、焦しみなから、攻めるレースができた。これまでこれだけの白カーンの方じゃない。尚、指導者、チームメイト、支えてくれた全ての人に感謝したい。」

原勇輔選手は、東城小中学校の出身で、城に住んでいます。現在、大島高校3年生です。